

事業報告

令和5年度信州高遠青少年自然の家教育事業 「ジャンプ アップ キャンプ」

令和5年10月7日(土)～8日(日)
【対象】小学校3年生～4年生
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

自然の中でのグループ活動を通して、自分の思いを基に行動する力や、多くの人とかかわりを持ちながら他者の気持ちに寄り添ったり、自分の思いを他者に伝えたりする力を育む機会とする。また、野外での自然体験活動を体験させることで、自然に対する興味を高め、今後自然体験を行うきっかけづくりとする。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和5年10月7日(土)～10月8日(日)

(2)参加者 30名

(3)日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10/7 (土)								受付	開 会 式	テント設営		野外調理 牛肉の塩釜焼・タコライス		焚き火	就寝 準備		就寝
10/8 (日)	起床	野外調理 サンドイッチ(朝食) おにぎり(昼食用)		テント撤収	ニジマスの掴み取り ニジマス調理体験		昼食 ニジマスの 塩焼き おにぎり	閉 会 式	解散								

3. 企画運営のポイント

- 当施設の事業の中でも、研修支援の団体でも小学3、4年生のみでのテント泊をする機会はほとんどない。この事業を実施することで、小学3、4年生のテント泊体験の知識ややり方を積み重ね、教育事業や研修支援事業の中でも紹介できるようにする。
- 今回の事業では、テント泊をし、キャンプをすることがプログラムの柱となるため、食事はすべて野外調理を行い、キャンプ体験を満喫できるように企画する。
- テント設営時から雨天の場合や、最低気温が想定より低くなりそうな場合には、安全にテント泊(キャンプ)が行えるように屋内にテントを張って宿泊できるよう事前準備をするとともに、参加者・保護者にも事前にその旨伝え、事業に参加することの不安を減らす。
- 「魚のつかみ取り → 自分で捕まえた魚をさばく → 塩焼きにして食べる」というプログラムは、生物の命や普段の食事を改めて考え直すことができる貴重なプログラムであると感じているため、今回の事業の中でぜひ取り入れたい。

4. 参加者の声(一部抜粋)

- 少しむずかしかったけど、がんばってみんなときょう力してテントをはることができた。(テント設営)
- たいへんだったけど、はじめてテントでねれてうれしかった。(テント設営・テント泊)
- 友だちのことをよ知しれた。(テント泊)
- あんがいぐつりとねむれたので、よかった。(テント泊)
- 野さいを切ったりむずかしかったけど、おいしいりょう理ができた。(夕食づくり)
- 二つのりょう理をはんで力をあわせて作れたのがよかった。(夕食づくり)
- タコライスがめっちゃおいしかった。(夕食づくり)
- 川がつめたくてじごくだった。とって、作って、食べて、うまかった。ほねが多かった。(魚のつかみ取り・調理)
- さかなをころすのが、かなしかった。(魚のつかみ取り・調理)
- さかながぬるぬるしていた。(魚のつかみ取り・調理)
- このキャンプはもう来年はこれないかもだけど、またこのメンバーのだれかにあえたら「いいな」と思います。(全体感想)
- 今度は、ソロキャンプにいきたいです。(全体感想)

5. 事業中の様子

【テント設営】



【テント設営】



【野外炊飯・夕食】



【野外炊飯・夕食】



【焚き火】



【朝食のサンドウィッチづくり】



【昼食のおにぎりづくり】



【魚のつかみ取り】



【魚をさばく】



【魚を焼く】



【昼食】



【記念撮影・全体写真】



6. 成果と課題

(1)アンケート結果 回収30名（参加者30名・回収率100%）

事業全体を通して	満足：26名	86.7%	やや不満：0名	0%
	やや満足：4名	13.3%	やや不満：0名	0%

(2)成果と課題

- 今回のジャンプ アップ キャンプは、小学生 3, 4 年生対象のキャンプの事業であったが、屋内に設営したとはいえテント泊ができ、3食自分たちで食事を作ることができ、充実した内容であった。小学 3, 4 年生対象でもキャンプの事業ができることが今回の事業で分かり、今後、研修支援事業で広めていくことができるという可能性を感じた。
- 10月上旬のテント泊であったが気温が0度近くまで下がったのは想定外であった。小学 3, 4 年生でテント泊するのであれば、実施時期についてはもう少し検討すべきであった。ただ、雨天や気温が低い際の対応（宿泊棟内にテントを張る etc.）については事前に想定し準備していたため、問題なく事業を進めることができた。
- 今回、気温が低かったため屋内でのテント泊をすることとなったが、参加者の感想からも、テントで泊まるドキドキ感や特別感は十分に味わえたようであった。屋内でのテント泊は、今回のように年齢が低い参加者のキャンプの際には、テント泊によるリスクを減らすことが出来る有効な活動であるということが分かった。
- 魚のつかみ取りを行い、自分たちで捌き、調理し、食べるという一連の活動は、命を食べるということを実感できる素晴らしいプログラムであると感じている。今後も事業の中で取り入れたいプログラムであり引き継いでいくべきであると考えている。
- 2日目、魚のつかみ取り後、服がぬれた参加者の着替えの時間が想定以上に時間がかかり、その後のプログラムが30分以上後ろに押してしまった。寒い時期の水を使った（服がぬれる可能性のある）活動は、余裕を持った着替えの時間をとる必要があることを考え計画を立てる必要がある。